Joyeux Noël

ビュッシュ・ド・ノエルとは"クリスマスの薪"という意味のフランスの伝統的なクリスマスケーキ。
その昔、冬至を境にして行なわれる北欧の伝統的なお祭りの中で、本に精霊や祝福を宿して燃やしてその灰を土に返して豊穣を願うという儀式がありました。これがキリスト教にも受け継がれてクリスマスに薪を燃やすという習慣が残っていきました。燃え残りの古い薪をもう一度暖炉にくべて燃やし切り、その灰を畑にまいて土に戻して、新しい年の豊穣、家族の繁栄と幸福を願いました。
こういう思いがビュッシュ・ド・ノエルというお菓子に託され、現在まで続いてきています。
PBのビュッシュは、スペシャリテ「ドゥシュコラ」。ミルクチョコレート(オペラ社の「ハデ」)とシェフの大好きなビターチョコレート(オペラ社の「ガルバノ」)の2層のムース・ショコラ。
どうぞお楽しみください。

Chocolatier **La Pierre Blanche**

Joyeux Noël

シュトーレンはドイツ東部の古都ドレスデンで誕生しました。もともと新年や収穫祭、皇帝の即位式などの祝事に作られていましたが、徐々にクリスマス菓子として定着していきました。
その由来は、イエス=キリストのおくるみ姿やゆりかごの形、東方三博士がキリストを訪れた時の杖、神父がかける聖紙(シュートル)、坑道(シュトレン)、など、諸説あります。
発祥の地ドレスデンのシュトーレンは「ドレスドナー・シュトーレン」という特別な名で呼ばれます。
当時ドレスデンは気候が厳しく材料に乏しい地域で、比較的入手しやすいオレンジやレモンのドライフルーツ、アーモンド、そして貿易都市フランクフルトから送られてくるスパイスを加えて焼き上げていました。この最低限の材料で、特別な日のために最高のお菓子を作ろうと生まれたシュトーレン。「油脂さはないけれどじっくり生地を味わいたいお菓子」。シュフも低脂菓子らしい魅力にあふれたシュトーレンが大好きです。

Chocolatier **La Pierre Blanche**

Merry Christmas

聖ニコラウスの伝説 サンタクロース

270年頃、ギリシャで生まれて、ローマ帝国の小さな町ミラの司教として活躍したニコラオス。
キリスト教の大迫害にも屈せず、信仰を捨てずに教えを守り続けました。
そして1200年頃に守護聖人「聖ニコラウス」となりました。

★★★★★

聖ニコラウスは、ある父親の嘆きを聞きます。働けども貧しくて、3人の娘を嫁がせることができません。
聖ニコラウスは、その夜、3つの金塊を家の中に投げ込みました。
すると、金塊は3人と娘下の中に入ったのです!
これが、サンタさんがクリスマスプレゼントを靴下の中に入れる習わしの始まりといわれています。

他にも、病害された3人の少年を生き返らせたという伝説もあり、こどもたちの守護聖人とされ、船乗りたちからも、海の安全を祈って、遭難時や荒海に出るときに、人々に知られるようになりました。

聖ニコラウスの命日は12月6日。オランダ、ベルギー、ドイツの一部の地方では、前日5日にプレゼントを送ります。オランダ語では「シンタクラース」と呼ばれ、国の発展の礎となった海運業の守護聖人としても深く信仰されました。

11月中頃、シンタクラースはスペインから船で上陸、馬にのって町をパレードし、見に来た人々に お菓子を投げてくれます!
そして12月5日夜での前、夜には白馬にのって空を飛んで、就寝時や病院にいるこどもたちにプレゼントを届けてくれるそうです。

★★★★★

オランダから新大陸の植民地に「シンタクラース」がもたらされ、それぞれの地でサンタクロースのイメージがつくられていきました。
アメリカでは、19世紀に入って、クリスマスを家族で祝う行事にしようと、作家や詩人たちが著書でサンタクロースを描くようになります。
1809年『ニッカーボッカーのニューヨーク史』(ワシントン・アーヴィング著)で、馬車で空を飛び、良い子にプレゼントを配るさまが書かれました。1831年には作者不詳の挿絵入りの詩「子どもたちのお友だち」で、コートを着てアルビットを配る姿や馬車を引く8頭のトナカイが描かれました。翌182年「クリスマスの前の晩」(クレメント・クラーク・ムーア著)で、サンタのかっこうこのいい体型や8頭のトナカイがそりを引くというイメージが定着し、19世紀の後半には、白いフアーがついている赤い帽子やコート、白いおひげといった、現在につながるサンタクロース像ができあがりました。

Joyeux Noël ! Chocolatier **La Pierre Blanche**

サンタクロースは本当にいるのでしょうか

1897年9月21日、ニューヨークのサン新聞に掲載された。
ニューヨークの8歳の少女バージニア・オハンロンの「サンタクロースは本当にいるんでしょうか?」という手紙に答えて、サン後輩のフランシス・P・チャーチ記者が書いた有名な社説があります。

★★★★★

バージニア、お答えします。
サンタクロースなんていないんだという、あなたのお友だちは、まちがっています。(中略)
サンタクロースがいるというのは、けっして うそではありません。
この世の中に、愛や、人への思いやりや、まごころがあるのと同じように、サンタクロースも確かにいるのです。
あなたもわかっていらっしゃる。
世界に満ちあふれている愛やまごころこそ、あなたの毎日の生活を、楽しく、楽しくしているものなのだということを。
もしもサンタクロースがいなかったら、この世の中はどんなに暗く、さびしいことでしょう。(中略)
サンタクロースがいるだけでは、人生の楽しみをやわらげてくれる、子どもらしい信頼も、詩も、ロマンスもなくなってしまうでしょう。
わたしたち人間の味わうよろこびは、ただ目に見えるものの、手で触るもの、感じるものだけになってしまうでしょう。(中略)
サンタクロースがいない、ですって! サンタクロースが信じられないというのは、妖精が信じられないのと同じです。(中略)
サンタクロースを見た人はいません。けれども、それは、サンタクロースがいないという証明にはならないのです。
この世界で一番確かなこと、それは子どもの目にも、おとなの目にも、見えないものなのですから。
バージニア、あなたは、妖精が芝生で踊っているのを、見たことがありますか?
もちろん、ないでしょう。
だからといって、妖精などて、ありもしないでたものだなんて ことにはなりません。
この世のめこみる見えないもの、見ることができないものが、なにからなにまで、人が頭の中でつくり出し、想像したものだなどということは、けっして ないのです。(中略)
……目に見えない世界をおおいかくしている幕は、どんな力の強い人にも、
いいえ、世界中の力持ちがよってたかっても、引き裂くことはできません。
たた、信頼と、想像力と、詩と、愛と、ロマンスだけが、そのカーテンをいっときりきのけて、
幕のむこうの、たとえようもなくうつくしく、輝かしいものを見せてくれるのです。
そのようにうつくしく、輝かしいもの、それは、人間のつくったためでしょうか?
いいえ、バージニア、それは計算の中、それは計算もおよばないものだは、この世には、他にないのですよ。(中略)
サンタクロースがいない、ですって!
とんでもないうれしいことに、サンタクロースはちゃんといます。それどころか、いつまでも死なないでしょう。
一千年の先までも、百万年の先までも、サンタクロースは、子どもたちのこころ、いまと変わらず、喜ばせてくれることでしょう。

*1897年9月21日「サンタクロースがいるんだよ!」掲載日付は9月19日(一部資料では9月21日)

★★★★★

シェフは、チョコレートの工房で、カカオの妖精を見たことがあるみたいです。
若い頃、クリスマスイブに夜中まで仕事をしていたときに、どうもサンタクロースを見たことがあるようなのです。
でも、このことは秘密です。シェフは、妖精やサンタクロースに会えた感動を
大事にしの胸にしまっておって、その感動を、チョコレートケーキに、そっと入れているそうです。
これも大事な秘密なので、内緒にしておいてください。
どうぞ素敵なクリスマスをお過ごしください。

Joyeux Noël ! Chocolatier **La Pierre Blanche**

クリスマスツリーとユールログとビュッシュ・ド・ノエル

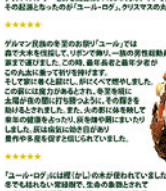
クリスマスツリーを飾る風習は、1400年代のドイツで始まりました。
その起源とされたのが「ユール・ログ」クリスマスの丸太です。

★★★★★

ゲルマン民族の冬至のお祭り「ユール」では森で大木を伐採して、リボンで飾り、一族の男性総動員で運びます。この時、最年長者と最年少者がこの丸太に乗って祭りを始めます。
そして家に着くと薪にし、炉にくべて燃やします。
この炉には魔力があるとされ、冬至を境に太陽が赤の国に行き戻っては、その魔力を助けるとされました。また、火の薪に体を触れて幸運の健康を願ったり、炉を傾や周りまいたりしました。炉は病気に効き目があり重宝がられ、炉を傾や周りまいたりしました。

★★★★★

「ユール・ログ」には樫(かし)の木が使われていました。
冬でも枯れない常緑樹で、生命の象徴とされていました。樹木信仰の強いドイツ、キリスト教が勢力を増すにつれて、父と子と精霊の「三位一体」を知らしめるために、これらを公共的な場に、同じ常緑樹である柊(ヒイラギ)の木と、ホラ貝と、蝋燭とを組合せて、生命や冬至のお祭りとクリスマスを融合させていました。



クリスマスツリーとして樹の木が飾られるようになったのは1419年にドイツのフライブルグでパン職人の信心会が聖霊教貧院にツリーを飾ったのが始まりと言われていますが、宗教改革で知られるマルティン・ルターが子供部屋に飾ったツリーが最初とする説もあります。ルターは部に見立ててロウソクを飾ったそうです。これも、太陽が力を引保する象徴として受け継がれてきました。クリスマスツリーは、数百年、ドイツ国内のみで飾られていましたが、ドイツからの移民や王室の国際結婚などにより、ヨーロッパ、アメリカへと広まっていきます。

★★★★★

一方、「ユール・ログ」の薪の風習は、中世以降、ヨーロッパ各地に伝わります。12月25日の降誕祭の朝に火を点けて1月6日の公現祭まで「十二夜」の間火を絶ややず、燃え続けるように、とした。
「ユール・ログ」の異型は19世紀に入ると現れましたが、フランスのクリスマスの伝統菓子「ビュッシュ・ド・ノエル」に新しい年の家族の健康と繁栄への願いが受け継がれています。

Joyeux Noël ! Chocolatier **La Pierre Blanche**

毎日がクリスマス!

19世紀のアメリカの教育学者で、牧師で、詩人のヘンリー・ヴァン・ダイクの詩に「Keeping Christmas」という詩があります。
社会でのクリスマス礼拝の説教や、ドラマのクリスマスエピソードに引用されていたりして、ヴァン・ダイクを知らなくても、(毎日がクリスマス)という言葉はたくさんの人に知られています。
素敵な響きを持ち、温かく力強さを備えた言葉・・・・・愛を信じ、人を思いやる心があれば、
毎日がクリスマス!

★★★★★

クリスマスというよりは日々大切に守り、祝うことよりも、もっと良いことがあります。
それは、毎日をクリスマスにすることを。

あなたは、自分が誰かのためにしたことを思えて、他の誰かあなたのためにしてくれたことを覚えているかどうか。
あなたが社会に与えた恩恵をくに留めず、社会があなたに与えた恩恵について考えることができるかどうか。
(中略)
身をかがめて、小さな子供たちの望みや願いをじっくりと聞いて考えることができるかどうか。
年老いていく人の弱さや孤独を思いやることを忘れていないかどうか。
どれだけ自分が友人に愛されているかを問題にするのではなく、
あなた自身が友人を十分に愛しているかと自分に問いかけているかどうか。
(中略)
誰いも を喜び迎り、あなたの深い思いやりに溢れた顔を作り、
誰でも入れるように門を開けておくことができるかどうか。

これらのことを、たとえ一日でもできるのであれば、あなたは毎日をクリスマスにすることができる。

愛が世界で最も強いと、憎しみより、恵より、死よりも強いと信じ、
そしてベツレヘムで生まれ、祝福された奇跡を通の愛であり、輝きであると信じることができるのであれば、
毎日がクリスマス。

もし一日そうできたなら、ずっと毎日をクリスマスにすればいい。
でも、一人だけでは続けきろうなら。

★★★★★

シェフが「ジョコラティエ ラ・ピエール・ブランシュ」をオープンしたのは、
チョコレートの文化を日本に根付かせるために、本物のチョコレートを子供たちに与えたいと思ってのことでした。
「食文化だけではなく、芸術でも、娯楽でも。本当に良いものを子供に与えることができて、初めてそれが文化として根付いたと言えます」。
チョコレートにのせて、シェフが子供たちに伝えたいことは、
(毎日がクリスマスの思いと温かはなりません。
どうぞ素敵なクリスマスをお過ごしください。

Joyeux Noël ! Chocolatier **La Pierre Blanche**

サンタ飛び出し注意!

ノルウェー政府公認の「サンタクロースが住む町」とされるドローバックには「サンタ飛び出し注意」という交通標識があるそうです!

★★★★★

首都オスロから南に向かって3.5km、オスロフィヨルド沿いの小さな港町、ドローバック(Drobak)。
サンタクロースの町からでは、車道の横には「サンタ飛び出し注意」の標識が立っています。
この標識のサンタさん、
ノルウェーでは「ニッセ(nisse)」と呼ばれています。

★★★★★

ニッセは、ノルウェーやデンマークに
ちくかを伝えられている妖精のことで
あい 格子やセーターを着ていて
おの妖精たちにはみ身いて
トの家に幸せをもたらしてくれます!
してないたずら好きで
おかゆ好で不思議なことがあると
ニッセがやったな、と
言うそうです。
日本の座敷わらしと
ちょっと似ていますね。

ノルウェーではこのニッセがサンタクロースとされていて
クリスマスの季節には、クリスマスのニッセという意味の
「Jul Nisse」(ユールニッセ)と呼ばれるようこも、
クリスマスイブには、ニッセのためにと、トアの前に
おかゆを用意しておくという西欧があるそうです。
サンタと違って、ニッセは
おじいさんだけではなく、老若男女さまです。
ノルディック模様のニットを着た
子どもやベイビーニッセもかわいいことと!

★★★★★

ドローバックのクリスマス郵便局には
世界中から10万通近くの
クリスマスカードが届きます。
ニッセがお返事を書くのですが
この時期はおしてて
がんばっても数千通程度しか
出せないのだそうです!
宛先はこちらです↓
SANTA CLAUS
1440 Drobak Norway

Joyeux Noël ! Chocolatier **La Pierre Blanche**